



翔洋通信

翔洋学園高等学校 学校だより

令和8年8月6日発行 第9号

「自分を見つめ思いを伝える！」感動の校内生徒生活体験発表大会から

まず、熊本地震で被災した皆様に、心よりお見舞い申し上げます。8月、夏真っ盛り。「酷暑日」という言葉を毎日のように耳にします。生徒、教職員ともに、健康で安全なそして実りある夏季休業期間となることを願うばかりです。

さて、7月24日（金）、日立本校を拠点会場に各キャンパスをオンラインで結んで、「第21回校内生徒生活体験発表大会」を開催しました。本校では、生徒が学校生活を通して体験したことや学んだこと、そこから生まれた自分の思いを言葉にして表現する場として、毎年開催を重ねてきました。

今年度は、各キャンパスから10名の生徒が発表者として登壇しました。7分間の持ち時間の中で、自分の思いの丈を言葉にして伝えます。文章構成や言葉を吟味し、どう表現したら聴き手に思いが伝わるかを工夫しながら、表情豊かに発表する姿は本当に素晴らしかったです。この日の発表に向けて、原稿作成から表現練習まで、真摯に取り組んできた発表者10名の生徒には、心から敬意を表します。

また、今年度から、せっかくの発表を、ぜひリアルタイムで同じキャンパスの生徒たちにも体験させたいと考え、各キャンパスの発表会場で、希望者が聴き手として参加できるようにしました。発表者の体験に基づく熱い思いに触れることは、聴き手の生徒にも新たな発見や学びをもたらしてくれました。

熱弁を振るった10名の発表者と校長からの講評の概略を紹介します。

【発表順】

発表者（所属キャンパス）	演題	講評
 Aさん（水戸）	私らしく 生きるために	自分を見失いそうになったときにつけられた「あなたらしく」という言葉をお守りにして、「自分の歩幅で歩く」ことができるようになったとのこと。自分の歩みを冷静に見つめながら、人の気持ちにも思いを寄せて成長できた様子がよく伝わってきました。誠実な人柄がよく表れた発表でした。
 Bさん（山形）	本当のわたし が息をする	タイトル（演題）の妙が生きていました。「気を使ってまわりに合わせる」ことに息苦しさを感じていたころの自分。本校への転入という環境の変化をきっかけに「自分の考え方ひとつで世の中の見え方が変わる」ことの気づき。自身を「メタ認知」できたからこそその成長が伝わってきました。
 Cさん（下館）	勇気のバトン ～勇気をくれた 先輩から後 輩へ～	「一歩を踏み出せない」自分に焦りを感じていたが、「友達づくり」に挑戦。意気投合できる友達との出会いをきっかけに、様々な学校行事に参加するように。グッドモデルとなる先輩の姿に刺激を受けて、今度は自分が後輩たちにこの経験を伝える立場に。よき「勇気のバトン」をつないでくれました。



緊張感漂う審査会場（日立本校）



聴き手に思いが伝わり真剣です（日立本校）

 Dさん（会津）	私を輝かせてくれたダンス	自身の存在感の源「ダンス」。本当に好きなことが自身の人間形成の核になっていることの強みとよさが伝わってきました。現在は会津キャンパスダンスクラブ長として活躍中。キャンパス内はもちろんのこと、子ども園訪問、地域の行事などにも発表や交流の輪を広げているとのこと。応援しています。
 Eさん（日立）	殻を破る	文章構成や表現力に優れた発表でした。マイナスイメージからスタートした本校での学校生活でしたが、一步一步目の前の課題を乗り越える努力を積み重ねることで、自分の意思を表出することの大切さを実感していく姿。本校で学ぶ多様な生徒たちの成長や学びのグッドモデルとなる内容でした。
 Fさん（いわき）	私にとっての宝物	もともともっていた前向きなエネルギー。一時後ろ向きな時期を送りますが、学校生活や地域の人とのかかわりの中で、積極的に世界を広げ自身の力を発揮できるように。演題にある「宝物」とは自分の夢。学校や地域にとっては、前向きにパワーを発揮するその姿こそが「宝物」かもしれません。
 Gさん（土浦）	感謝にかえて	現在の学校生活の充実ぶりがよく伝わってくる発表でした。「感謝にかえて」という演題からも発表からも誠実な人柄を感じました。剣道を通して出会った先輩から学んだこと。今年も定通体育大会に果敢に挑戦し成果をあげていること。全国大会でも活躍し、ぜひその姿を後輩に伝えてくれることを願っています。
 Hさん（古河）	私のキャンパス	「絵をかく」という自分の世界のベースがあるからこそ、挫折を乗り越え、自分のペースや人との距離感を大切に「心地よさ」さえ感じながら学校生活が送れている。「自分の大好きな世界を表現したい」とコンテスト等にも挑戦している姿に感心しました。美大進学という明確な目標、応援しています。
 Iさん（古河）	挑戦	アルバイトの経験から、「自分の意思を伝えることの大切さ」を学んだことをきっかけに自信を深めていきます。自分を伝えるためには、相手の意見を尊重することが大切であることに気づいているところが素晴らしいです。相手の気持ちを汲み取れる豊かな感受性が伝わってくる発表でした。
 Jさん（下館）	人との出会いがくれたもの	人との出会いが人生をかえる。学校生活で身をもって経験した自身の成長の足跡を伝えました。何事にも前向きに取り組む先輩の姿に学び、ウェルカムセレモニーの実行委員として新入生を迎える立場を経験したこと。今度は出会った後輩を成長させるメンターとしての活躍を期待しています。

自分を見つめて自分の内面を表現するには、勇気が必要です。本当の自分を客観的にとらえて文章や言葉で表現するには、冷静な観察力と豊かな言語感覚が必要です。そして自分の思いを聴き手に伝えるには、音声言語としての表現力が問われます。

しかし、テクニカルな表現力は十人十色です。今回の発表者 10 名の生徒が素晴らしかったのは、学校生活をとらえて、自身の課題とそれに挑んだがゆえに得られた成長を実感できているところです。「誰かに伝えたい自分がある」ということが大切なのです。聴き手には「あなたには誰かに伝えたい自分がありますか？」という問いが聴こえてくる、そんな充実した実りある発表大会でした。聴き手も含めて参加した生徒たち、ありがとう！

なお、この発表大会では、厳選な審査を経て、Eさん（日立本校）とFさん（いわきキャンパス）が最優秀賞を受賞しました。2名は、学校代表として、10月2日（金）に高萩市文化会館で開催される茨城県高等学校定通生徒生活体験発表大会に出場します。みんなで応援しましょう！

…つづく